

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回「基本方針」が運営理念と表現が異なっていた統一した方が良いとの指摘を受ける、今回統一した意識、認識をもって利用者の皆様の人権を尊重し、自宅で生活していた様な雰囲気の中で皆様と、一緒にゆっくり、楽しく過ごしていただけるように取り組んでいきたいと努めています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例のミーティング、ケア会議、日頃の職員間の会話の中に取り上げ話し合いができるように努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には入所時の説明の中で又、面会の対応時必要時に理解してもらえようその都度、必要に応じて取り組んでいる。地域の方には、今までは接する機会が少なくできていない。	○	ホームだよりなどを発行したり、地区の集会に参加し地域の皆さんに理解してもらえよう取り組んでいきたい。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	今年度から自治会に加入する、職員の願いでもあり喜んでいますが、7月下旬夏祭りを行い昨年よりも少数ではあったが地域の方の参加があった、朝、夕の挨拶、回覧板の受け渡しの折に、隣の方々から会話していくように努めている。	○	もっと地域に溶け込んでいくように努めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成19年度4月から自治会にはいり、今後、活動の参加、交流に努めていきたい。	○	自治会に加入したばかりで殆どの活動にはまだ参加していない徐々に参加し交流を深めていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在具体的な、話し合い、取り組みはない。	○	今後は自業所、職員の力の範囲で取り組んでいくことを検討したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善すべき点を見直して、1つでも改善できるように取り組んでいる、地域との交流、資料の作成(マニュアル)、研修への参加など。 運営推進委員会は1度も行っていない。	○	運営推進委員会を早急に開けるように取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内での研修会、連絡協議会に参加して情報を得るようにしている。	○	市町村との交流に努め、事業所の質、サービスの向上に取り組んで生きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在当施設には該当者がいない事も有り、話し合う機会ももっていない。	○	今後これらの件については、全職員が学ぶ機会を得制度について理解、認識を高め取り組んでいきたいと思う。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーテング、学習会、研修会の中で学び施設の中で虐待行為はあっては成らないこととして掲げている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前少なくとも1度はご本人、ご家族の方とお会いして話をお聞きしている、契約時の説明も本人、家族に理解、納得してもらえるよう説明し、解約時も本人、家族の納得のうえで対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口の見やすい所に、ご意見、苦情受付箱設置している。	○	玄関入り口の見やすい所にご意見、苦情受付箱を設置しているが、殆ど使用されていない、たくさんのご意見、ご要望を聞かせていただくよう働きかけたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態、金銭管理報告は毎月の支払いの請求書の中に同封したり、面会時に、又健康状態の変化時に、その都度家族へは報告している。職員の移動については改めて報告はしていない。	○	状態の変化、面会時とは関係なく定期的な連絡、報告が出来るように取り組みたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入り口の見やすい所に意見、苦情箱設置しているが、現在まで、意見等も少ない、今後も外部の方のご意見を聞き運営に反映させていきたいと思っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティング、状況に応じてその都度会議を開くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の体制が十分とはいえない。	○	利用者、家族の要望にできる限り柔軟に対応できるように職員体制を充実させてもらいたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職者を最小限に抑える為に社会保険等の加入に積極的に努めている。良き人材の採用に努めている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員研修の参加を実施した。	○	今後も積極的に研修会に参加できるように努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム運営上同業者との交流や勉強会などは実施していない。		休日を利用しての交流会参加を促してみたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	昨年より職員との懇親会を実施し、ストレス等の軽減に努めています、今後も年2回ほど実行します。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員の努力、勤務状況は把握している、向上心をもって働けるように努めたい。	○	資格の取得、講習会の参加で向上心を持てるようにつとめる。
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	関係者からの情報を参考にしながら本人の話をよく聞くように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主に管理者が窓口になり聞くようにしているが、他の職員も相談されやすい姿勢を持つよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、生活状況、家族との関係等を良く把握し対応するように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に入院先に面接に行ったり、さりげなく逢いに行ったり、家族と本人が施設を見学に来て納得され安心して頂くように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーション、食事の準備、後片づけを一緒に行なったり、TVの報道等での喜び悲しみを共有している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り、敬老会、クリスマス会等に参加してもらったり、外出、外泊をどうして家族との関係が継続できるよう努めたい。	○	入所者の家族会を年に1回でも開く事が出来たらと思う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会を多く持ってもらい本人と家族がより深く関わりが出来るように支援したい。	○	殆ど面会に見えな家族の方に働きかけたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅までのドライブ、親戚、身内の冠婚葬祭等に出席するための付き添い、自宅に外出、外泊(盆、正月)家族との会食の為の外出等を支援している。	○	今後も継続して支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各居室にはテレビをおかず娯楽室、リビングで一緒に見てもらえるように努め、レクリエーション等を中心に皆さんで楽しく関わりを持てるように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院中の方には見舞いにいたり、不幸にして亡くなられた時は経営者がお悔やみに行く事もある。	○	入院、他施設に移られるかたが殆どであった、これからも時間の許す限り継続したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の面会、外出の希望があれば、家族に連絡したり、話をしたい希望があれば電話を取り次いだりと個別の対応に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、病院、在宅自業所の担当者等からの情報を得ている。必要に応じて資料の提供も受けている。	○	本人、家族からの情報はもちろん、医療面、担当ケアマネジャーからの情報把握は継続していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康チェック、食事、排泄、睡眠等の状態を記録、申し送り等で把握するようにつとめている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成する時点で本人、家族に希望を聞いているが全ての方に反映した計画を作成しているとはいえない。	○	本人、家族の方にも、もっと時間を持って説明し意見やアイデアを反映した計画書作成に取り組みたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回モニタリング実施、その都度変化が生じた時に会議を開いている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、個別の介護記録、申し送り簿		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身内の葬儀への参列、供養、法要時の出席の為の付き添い。	○	本人、家族の要望があれば今後も継続して支援してゆきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災非難、誘導訓練の実施を行っているが他の協働、協力は無い。	○	今後は地域の資源の協力を得ながら利用者の皆様が安心してより良く過ごして頂くよう支援したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	市内の会議に参加、他のケアマネジャー、事業者と関わりはあるが、他のサービスを受けるまでには至っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	長期的なケアマネジメントも今後必要と思われるが現在は何も対応していない。	○	今後対応していくよう検討したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に(1回/1~2月)受診、診察、必要に応じた検査を実施している(内科、外科、眼科、皮膚科、)健康管理の目的で年に1回~2回程度の割合で健康診断を受けられるようにしたい。	○	昨年協力病院に相談したが病名がないと検査は出来ないと断られた。又市の保健センターが主催する検診に進められたが利用者の方の身体機能から困難と思われる再度協力病院にお願いする予定。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院、かかりつけ医院で受診、診察を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職とその都度話しあいは行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医、看護師との信頼関係を保てるよう日頃の職務の中で努めるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在はまだしていない、将来本人、家族が望まれる事があれば、検討することも必要と思う。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在取り組んでいない。	○	利用者、家族が今後望むなら検討する必要とおもう。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族が納得できるような話し合いを行い、その関係者との情報交換を十分に行うことで本人の負担を軽くするよう努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員としての秘密の保持の厳守		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の生活の中で声掛けを多く、会話を多くもって本人の思い、希望を引き出すように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味を楽しむ方(折り紙、オルガンを弾く)テレビを観て楽しむ方それぞれに過ごしていただいている。	○	寝たっきり、一人きりにならない程度で本人の希望を大切に支援してゆきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月～3ヶ月に1回程度で本人の希望に応じている。	○	今後も本人の希望、意向を尊重して支援してゆきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を1度施行する、「今日のお手伝い表」を作成して声をかけている、無理に促していることは無い。	○	本人の機能に応じて自立支援に向けた働きかけを行ないたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日同じ物にならないように工夫をしている(菓子類、ジュース、果物など)又手作りおやつを心がけている、お酒については特別な日以外には出していない。	○	季節折々にお酒をお出しする事も検討したい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを知り、その方にあった排泄の援助に努めている、(サービス計画を基に)		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴曜日、時間を決めていたが本人が望まれるなら別の曜日に入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	衣類、寝具等の定期的な交換、汚染時は速やかに清潔な物との交換し衛生面、清潔面に心がける、昼間の運動を支援し安眠への働きかけに努めている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味、調理の手伝い(野菜の皮むきなど)、草取りなどで気晴らしの支援に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちして管理されている方は少ないが希望があればいつでも使える状態にしている、又、買い物、美容室にも行くように働きかけている。	○	物忘れ、被害妄想(盗られ妄想)などが有り家族が希望されないかたもいられる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人員体制から十分でなく希望にお答えできないのが現状ですが、今後努力したい。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員の人員体制もあり出来ていない。	○	機会を作るように努力したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話について、要望があればいつでも支援している、外部からの電話も取り次いでいる、手紙を書かれる事も無く、又手紙のやり取りに支援する事もなかった。	○	手紙のやり取りについては、今後利用者の方にも働きかけを検討していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室に案内して椅子を用意し、お茶を出し、落ち着いてゆっくりとお話ができる様雰囲気づくりに努めている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで学んできたことを、再確認しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	今後も拘束しないケアに取り組んで生きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が常に確認し合う事で鍵をかけないケアに取り組んでいる。夜間の施錠は行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら職員同士が声を掛け合い、利用者の所在、様子を把握、安全に事故、ケガの無いように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には安全な場所に保管、管理しているが必要時は観察できる範囲で個別に危険が生じないように取り組んでいる。	○	利用者の機能、能力に合わせて個別に危険が生じないように取り組んでいきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	学習会、マニュアル、防災訓練実施、又自己学習をとうして事故防止に取り組んでいる。	○	個々に会った援助方法等をこれからの学習をとうして知識、技術の習得に努めていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていないが、状況に応じて繰り返し話し合いをおこなっている。	○	定期的な学習会を開き知識、技術の向上を図っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の職員の指導で通報訓練、消化訓練、避難誘導場所の確認、誘導方法等の訓練を受ける、地域の方には働きかけはしていない。	○	通報訓練、初期消火、誘導訓練、繰り返し訓練するように努めたい、又地域の方、隣接するお家の方の協力が得られるよう努力し、入所者の皆様の尊い生命をお守りできるよう努力したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時の説明時説明するように努めている。	○	説明を解りやすく、又その都度家族のかたと話し合える雰囲気を持てるように努めたい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回定期的にバイタルチェック、食事、排泄、睡眠、精神状態等の観察を行い、又入浴前に測定、一寸した変化にも確認しあい速やかな、早期発見、早期対応ができるように努めている、マニュアル等も参考に対応している。		異変、異常の早期発見、早期対応に今後も努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病名を確認、クスリ受け時の文献を確認し、服薬の量、回数をその都度理解して服薬の準備を行っている、個人別に薬箱を設けて、クスリ受け、クスリの準備(日付けをいれる)服薬介助と複数の職員が確認あつて支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養面を主に、消化の良い物、繊維のある物、食欲をそそる物を念頭におき献立を立てている、又、室内での軽い運動、外庭での散歩は、1人ひとりの運動機能にあつた形で行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後、毎日義歯洗浄、毎週1回、又必要に応じて夜間消毒をおこなっている、毎食後のうがいは全員の方は行っていない。必要に応じて個別に行っている。	○	夕食後毎日義歯洗浄、毎週1回、又必要に応じて夜間消毒をおこなっている、毎食後のうがいは全員おこなっていない、必要に応じて個別に行っている、今後毎食後にうがいの習慣を働きかけたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂食量のチェック、食事時のお茶の飲水の確認、午前10時、午後3時のオヤツ時、夜間の水分補給で確認し確保できるように努めている(夜間はボトルに一定量のお茶、麦茶を入れて朝飲水量の確認をしている)	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修、自己学修、マニュアルを基にし予防、対策に努めている。	○	マニュアルを基にインフルエンザ等には地域の状況を早く察知し早期の対応に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔な台所での調理を基本に、まな板、包丁、ふきんの消毒を毎日実行している、又、食器類は乾燥機での消毒を実施、感染予防に努めている。消毒チェック表作成して職員で確認しあうようにしている。	○	現行を継続し食中毒を発生させないように職員が今以上の認識を高めて取り組んでいきたい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設自体が民家を改造、増築しており、和風的でおちついた雰囲気があるのではと思う。又玄関側には庭木などがあり周囲に工夫されているとおもいますが、施設入り口が狭く車の出入りに困難		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の野花を玄関、食堂(卓上)に飾っている、夏場はよしずを窓側に使用して心地よく過ごしていただけるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室とゆつこともありTVを見るのが飽きたらそれぞれに自室に入り横になったり、折り紙を折ったりと思い思いの場所で過ごされている、この夏ベランダが完成した。	○	ベランダの活用に努めたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どが自宅から使い慣れた、好みの物をもってきてもらっている。整理タンス、ポータブルトイレ、歩行器、車椅子など。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計の設置施行、定期的に窓を開けて換気施行、温度希望も個人差がある為に個人に合わせて室内の温度調整に努めている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バイヤフリーに近い建物構造になっている、廊下トイレ、浴室に手すり設置して安全に自立した生活ができるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に名札を掛けている、トイレ、浴室などもその都度説明したり、案内の張り紙をしたりして工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内での散歩、ベランダでのお茶会(おやつ)、日光浴などを行っている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 ○ 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 ○ 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない